

【概況】<サウジ・ロシア自主減産を12月迄延長～原油在庫の予想を上回る取り崩し>

●1日、石油輸出国機構(OPEC)加盟・非加盟の産油国で構成する「OPECプラス」は今年6月、来年までの減産継続で合意。これとは別に、サウジアラビアとロシアは8月から自主的に生産と輸出を削減しているが、10月も両国が供給制限を続ける公算が大きいと伝わり、朝方からほぼ1本調子で上伸した。また、この日発表された一連の経済指標が改善し、需要の先行きに楽観的な見方が強まったことも強材料となり相場は85.55ドルへ続伸しました。

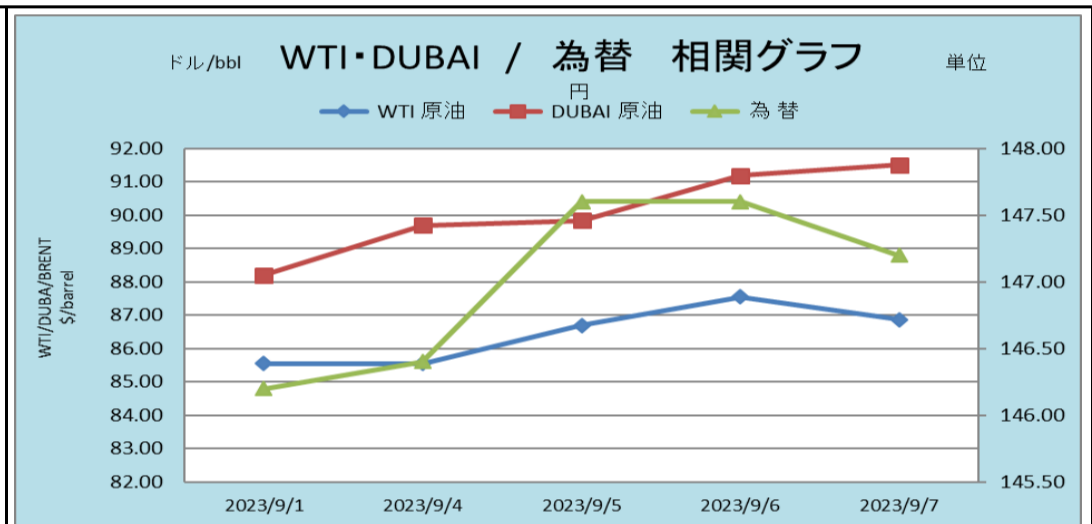
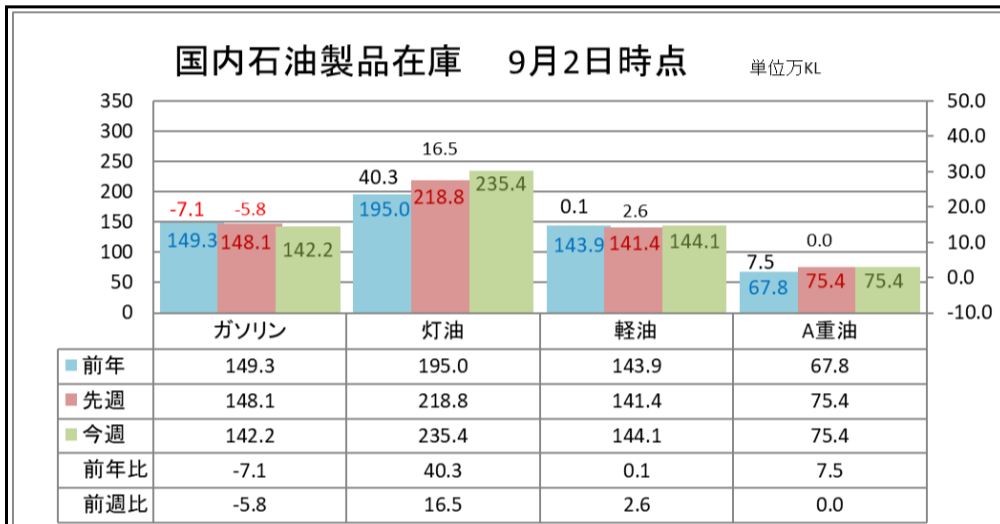
●4日、レーバーデーのため休場。

●5日、石油輸出国機構(OPEC)盟主のサウジアラビアは5日、当初9月までとしていた日量100万バレルの自主減産を12月末まで3カ月延長すると発表。これに歩調を合わせる形で、OPEC非加盟のロシアのノバク副首相も同日、日量30万バレルの原油輸出の削減を年末まで延長することを表明した。市場は、サウジとロシアがともに供給削減措置を10月も継続することを織り込み済みだったが、3カ月の延長は予想外。需給引き締め観測が拡大する中、原油買いに拍車がかかり相場は86.69ドルへ続伸しました。

●6日、主要産油国のサウジアラビアとロシアが5日、供給削減を今年末まで延長する方針を表明。加えて、サウジ国営通信は6日、サウジアラビアのムハンマド皇太子とロシアのプーチン大統領が石油市場の安定化に向けた取り組みを継続することで合意したと伝えた。これらを背景に需給引き締め観測が強まり、原油は買い進まれ相場は87.54ドルへ続伸しました。米石油協会(API)と米エネルギー情報局(EIA)が公表する週間石油在庫統計で原油やガソリン在庫がいずれも減少すると予想されていることも相場の支援材料。ロイター通信拡大版調査によると、原油在庫は前週比210万バレル減、ガソリン在庫は100万バレル減になるとみられています。

●7日、米労働省が発表した新規失業保険申請件数は2日までの1週間で前週比1万3000件減の21万6000件に改善し、市場予想(ロイター通信調べ)の23万4000件も下回る強めの内容だった。これを受けて、米国の利上げ局面が長期化するとの見方が広がったことから、外国為替市場では対ユーロでドル高が先行。ドル建てで取引される商品の割高感につながり、原油の売り材料となった。また、前日まで9営業日続伸し、10カ月ぶりの高値水準となっていた反動から利益確定の売りも出て相場は86.87ドルへ反落しました。

9月8日 16:00現在 WTI原油 86.42ドル 為替 1ドル 148.01円



	次回元売変動予測	
	9/14～	元売変動予測
ガソリン	→	-2.7～-3.2
灯油	→	-2.7～-3.2
軽油	→	-2.7～-3.2
A重油	→	-2.7～-3.2
LSA	→	-2.7～-3.2

【製品卸価格】

《今週》今週の元売り仕切り改定は、3社ともに原油コストは「+2.0円」、補助金は、「-17.4円・30%」、都合「▲5.7円」の値上げ改定となりました。資源エネルギー庁の公表する全国レギュラーガソリンの4日時点の小売価格平均は186.5円となっております。

《9月9日以降》次回の元売り改定は、原油コストは、「+3.0円～+3.5円」、激変緩和補助金は「-23.6円・30%」の見込みで、都合「▲2.7～▲3.2円」の改定の予測となっております。

※原油コスト「3.0～+3.5円」
 ※激変緩和補助金「-23.6円」 前週比-6.2円
 ※現時点での予測です。

【次世代エネルギー】<大阪ガスとENEOS、合成メタン量産へ 日本初>

大阪ガスとENEOSは29日、水素と二酸化炭素(CO2)を原料とする合成メタン(e-メタン)を量産すると発表した。2030年までに、大阪港湾部で大阪ガスが供給する都市ガスの1%に相当する年6000万立方メートルの製造を目指す。e-メタンの量産は日本初となる。

ENEOSが海外で製造した水素をトルエンと結合させ、国内まで輸送した上で水素を取り出す。大阪ガスが近隣の工場から回収したCO2と合成してe-メタンを製造する。e-メタンは天然ガスの代替として使い、CO2排出量削減に貢献できる。

欧州では天然ガスのパイプラインに水素を混ぜてCO2を減らす取り組みが増えている。ENEOSは水素事業を多角化しており、オーストラリアなど再生可能エネルギーが安価な海外から水素を調達している。同社の宮田知秀副社長は「年2万トンの水素を輸入する計画だ」と述べ、水素供給網の構築を急ぐ考えを示した。